

所管事務調査「人口増加対策」 北九州市の新ビジョンを考える際の視点について

1 北九州市を取り巻く環境

(1) 北九州市が直面する課題

- 日本の他都市やアジアに先んじて本格化する「少子高齢化・人口減少問題」
- 産業構造の転換や企業の流出などによる「経済成長の鈍化」
- DX・GXの推進による「生産性向上・高付加価値化」
- カーボンニュートラルなど「新たな環境問題」への対応 など

(2) 北九州市のポテンシャル

- 多様性を受け入れる包摂性にあふれ、どんなピンチにもひるむことなく、産学官民の連携で前へ前へと突き進んできたチャレンジ精神
- 公害克服を糧に、環境産業や環境国際協力に取り組んできた環境先進都市
- アジアに近く、水源が豊富で、地震が少ないなどの土地の優位性
- ものづくりの街として産業の集積、物流交通インフラの充実 など

2 新ビジョンで目指すまちの視点

- ① 人の熱さや産業の力といった北九州市のポテンシャルを最大発揮することで、「稼げるまち（＝経済成長）」を実現
- ② 成長の果実で、質の高いサービス（観光、文化など）や生活・教育環境を提供できる「ハイクオリティなまち」
- ③ また、市民サービスや都市基盤を適切に維持・充実することで、子どもから高齢者、障害の有無、性別、国籍に関わらず、「安全に、安心して暮らせるまち」



- ④ 成長と幸福が好循環する、新たな社会経済システム（成長モデル）を、世界に先駆けて直面する社会課題解決の道筋（ショーケース）として示し、日本全体やアジアに展開

北九州市が実現する
“新たな社会経済システム（成長モデル）”

「ハイクオリティ」
な都市づくり

成長と幸福
の好循環

市民の
「安全・安心」な
暮らしの確保

「稼げるまち」
の実現

世界に先駆けて直面する
社会課題解決の
道筋（ショーケース）を示し、
日本全体やアジアの
発展に貢献

北九州市のあらゆるポテンシャル

— 人情、自然、歴史、地理的優位性、ものづくり産業の集積など —

【参考】これまでの主な意見(まとめ)

☆=アドバイザー意見交換会 ◇=新ビジョン検討会 ○=ミライ・トーク

1 「稼げるまち」の実現

【産業】

- ☆ グレーター北部九州圏で、福岡市とか熊本市とか、他のところと提携しながらPRするとインパクト大きい。
- ☆ 福岡市（空港）、下関市（関門経済圏）と連携を進める。
- ☆ 名門企業もあれば、環境系のスタートアップもある、情報通信の分野に強い大学もある。その力を結集することで、新しい世界に貢献する産業を生む可能性がある。
- ☆ スタートアップ、観光などで活躍している面白い人もいる。顔を見せていくことで、北九州市のイメージが上がっていくと思う。
- ◇ 加工産業は零細企業が多い。構造転換を図らないとサプライチェーンを作れない。単なる加工業で終わるのではなく、リスキリングでDXを取り入れないといけない。
- ◇ 人口減少の中で、労働生産性の向上と給与水準への反映、労働力率の改善が重要。
- ◇ 素材型産業の技術やリサイクルを生かして、サーキュラーエコノミー(循環型経済)をどうデザインしていくかが課題。
- 地元のクリエイターや若い人にチャンスを作っていく。
- 農産物、海産物など若松のブランドは全国に通用する北九州の誇り。

【人づくり】

- ☆ 東京から流出している30代以上の高所得者層を呼び込めるかどうかで、都市の競争力が変わる。
- ☆ 学生起業家を含め、起業家を呼び込んでいく、もしくは起業する人材を輩出する仕組みをどう作るのかというのが大事なポイント。
- ◇ 外国の人材をどう集めていくのか。別府のAPUはうまくやっている。理工系を売りにする、特区を作るなど、文科省をはるかに超えるようなものを作ってほしい。
- ◇ 世界を見ている若者を旅立たせることは大事。終身雇用が崩れつつある中、何か起業したりするときに、戻ってくる仕組み（在学中に行政等と共同して活動する場の提供など）、アクセスのしやすさは大事。
- ◇ 北九州市にはDX人材が集積している。市内の理工系学生を活かすべき。
- ◇ IT、ITベンチャーが増えれば、若者は増えていくのではないか。
- ◇ 自分の存在価値をもって、市内に住み続けられる環境を作ることが重要。
- ◇ 働き続けたい高齢者を受け入れる環境が大事。
- ◇ スタートアップなど、若い人が挑戦しやすいまちになって欲しい。
- 高齢者はこういう仕事しかできないだろうと制限を決めず、年齢などに縛られない、やりたいことを生き生きとできることが素晴らしい。

【企業誘致】

- ☆ メガリージョンの視点で、市のもつ強み（工業）を生かした企業誘致、人材育成、教育機関。高専、工科大学的な科学系の教育機関を充実させていくことが大事。
- ☆ 災害が少ない利点を生かしバックアップ都市へ。
- ◇ 未来志向で言うと、新しい産業の誘致が必要。再生可能エネルギーが多く、100%自主エネルギーでやれるということ、さらに、運輸・物流、職住近接も含めた小さいまちづくりを目指せば、企業誘致にはプラスとなる。
- ◇ 必要なのは教育であり、資源を人的資本に投下すれば、必要な企業が集まってくる。

2 「ハイクオリティ」な都市づくり

【生活環境】

- ☆ ウォーカブルなまちづくりという視点が必要。
- ☆ 衰退都市というイメージとその原因を分析することが大事。
- ◇ 市内の通いやすい場所を福岡市のベッドタウン化するというのも1つの策。
- ◇ 職住近接、住宅取得のしやすさなどを若者にアピールしていくと良い。
- 街中にある緑の環境が「豊かさ」や「住み良さ」につながる。
- 街中で人がほっと一息つけるようなフリーの休憩場所や、歩道の拡幅や段差の解消など誰もが気持ちよく移動できることが大事。

【子育て・教育】

- ☆ 今後の日本やアジアに必要な魅力ある新時代の教育機関（ボーディングスクールやインターナショナルスクール）をファミリー向け住宅整備とセットで行い、東アジア一体からの移住定住を集めることを検討すべき。
- ◇ 外国にルーツのある子どもなど、多様性のある教育環境づくりが急務。
- 収穫体験や土に触れる体験など記憶と体感が一緒になると記憶に残り、市外に出た後もこのまちをプレゼンしてもらえる、そういうまちづくりが理想。

【文化芸術・スポーツ】

- ☆ 小倉織などの古い伝統工業を生かしていけないのではないか。
- ◇ 「スマートベニュー」の視点による、ミクニワールドスタジアムを中心に周辺地域も含めて交流エリアを開発。
- ◇ スポーツタウンになれるポテンシャルがある。産学官一体で推進する必要がある。

【人を惹きつける魅力づくり】

- ☆ 北九州市の産業遺産（インダストリー）をまちの再活性化に利用した方が良い（インダストリーから環境都市への転換は世界のアーバンデザイン）。
- ◇ 自然環境の点と点を結ぶ観光ルートを海外へ打ち出してはどうか。
- ◇ 「空き家」を活用したホテル化によりインバウンド需要を取り込んでどうか。

- ◇ 歩きたくなる街路樹の美しい景観を楽しむ街並みや医療、学ぶ場としてなど、「グリーン」の視点を様々な課題と組み合わせた取組を考えていくべき。
- 歴史と未来が集積された八幡東田エリアは将来性を感じさせる。
- 素晴らしい観光地の本質的な魅力と価値を正しく届けることで、観光で稼げるまちを目指す。

3 市民の「安全・安心」な暮らしの確保

【まちの安全】

- ◇ 老朽化（外壁落下）対策の過程を見せ、対策のビジョンを明確化したほうがいい。
- ◇ 安全・安心のまちづくりのためにも、住環境は重要なコンテンツになる。
- ◇ 紫川の水位の監視など、AIで早めの災害情報の発信に取り組むべき。

【安心できる生活】

- ☆ 健康格差の対策のため、まずは健康寿命の引き上げを目標にする。
- ☆ 健康、人間関係、自己決定という「幸せ」の要素による健康づくり運動によって魅力的なまちになる。
- ☆ 健康度合を上げていくには、子どもから高齢者まで気軽に安全に歩けるまち、公園がたくさんあることが大切である。
- ☆ 在宅ケア等の充実により、選択の幅が広がると自己決定ができ、幸せにつながる。
- ◇ 「健康経営」は、企業が組織の活性化や優秀な人材の獲得等とともに、高齢になっても意欲のある人が働ける社会になるための基盤である。
- 人々の繋がりは街への愛着が大きい。その愛着で人も増えるし、愛着も増えるまちになって欲しい。
- 人の輪がある温かい街であって欲しい。いざというときに地域に頼れる人がいるということは、暮らす上でも安心感にも繋がる。
- 個人として尊重される、誰もが個性を認め合う、多様性に開かれたまちが重要。
- 古い建物を活用し、小学生から高校生、お年寄りまでみんなが集まれるコミュニティエリア。
- 若者と地域の人が多く集まって、知らない人ともお喋りできるような空間があると良い。
- 健康というテーマが重要になってくる。健康をテーマに素晴らしい自然を生かしたまちづくりが必要。

【安心できる子育て】

- ☆ 心の健康をしっかりとサポートすべき（特に子ども）。
- ◇ 子どもの幸福度ナンバーワンのまちを目指すべき。
- ◇ 地域全体での人の繋がりを生かした子育て支援環境が大事。

- 祭りで多世代が小さい時から交流して顔見知り。街中がちょっとした家族のような繋がりを持っている。
- 子どもを預けるところがないから仕事ができないという状態は是非とも無くしたい。
- 子どもたちが五感を使って遊べる自然豊かな環境や子育て支援をする場を整える一方、地域の繋がりの希薄化により新たな支援の担い手が生まれづらくなっていることが課題。

4 日本全体やアジアの発展への貢献

- ☆ 役に立つだけでは失敗する。暮らす人や訪れる人にとって意味（価値）をつくり、国内外に発信することが重要。
- ☆ 自分たちの地域の様々な取り組みを通じて、日本はもとより世界にどう貢献していくのかというのが大事。
- ☆ 世界で一番活力のあるアジア太平洋地域の最前線にいる北九州は、東京や大阪を見るのではなく、西側（アジア）に目を向けると良い。
- ☆ 日本全体が衰退国家になってきている今、北九州が起爆剤になって、日本のリーダー的な役割を果たしていけると良い。
- ☆ 北九州市の歩みからも時代に合わせて変化し続けられる自治体として可能性を秘めていると思う。今の時代、変化は、日本だけではなく世界でも求められていることであり、北九州市は栄光、衰退、そして復興という代表的な都市になると思う。
- ☆ 環境やサステナビリティのための新しいインフラを世界に出していくと良い。
- ◇ 高齢化社会の中、北九州市が先陣を切って、どんな地域にシフトしていくかを日本の中で示していくことが期待される。